

1 インタビュー

革新的サービスやDXの成果をいち早く提供し、「あなたと世界を変えていく。」

NTTコムウェアは2022年1月、新ドコモグループとして新たなスタートをきった。これまで培ってきた「ソフトウェア開発力」を活かし、新ドコモグループの事業成長のドライバとなり、グループ全体の事業拡大をめざしている。2021年6月に就任した黒岩社長に、NTTコムウェアの事業方針・戦略について話を伺った。

ソフトウェア開発力による 事業成長を

— 2022年1月1日、NTTコムウェアは新ドコモグループの一員となりました。NTTコムウェアの事業方針、役割についてお聞かせください。

黒岩 通信事業を取り巻く環境が変化する中、新ドコモグループの事業成長に向けて、ソフトウェア開発力により、スマートライフ・法人事業領域における革新的なサービスを創出すること、また、新ドコモグループのIT戦略を担い、DXを加速、その成果をお客さまに提供していくことが当社に期待される役割です。

NTTコムウェアは、ソフトウェア

開発力を発揮し、新ドコモグループにおける事業成長のドライバとなる3つの取り組みに注力していきます。

まず、1つ目はビジネスとITが密に連携したアジャイル開発をインハウスで進め「新たな顧客体験を創出すること」です。2つ目は「次世代ネットワーク・プラットフォーム」において最上流工程から参画することで、柔軟で拡張性・運用性の高いアーキテクチャを実現することで。そして3つ目は新ドコモグループ全体のIT戦略を担い、ドコモ・システムズとの統合によりシナジーを発揮、ドコモグループ全体のDXを加速し、その成果をいち早くお客さまへ提供していくことです。



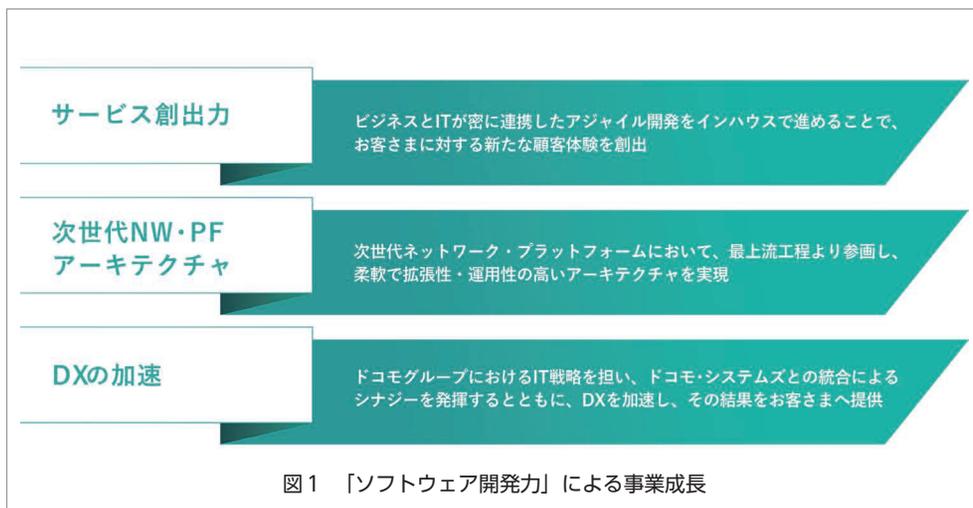
NTTコムウェア株式会社
代表取締役社長
黒岩 真人氏

革新的サービスやDXの成果を いち早くお客さまへ提供

— 革新的サービス提供、DXの加速にむけてどのような取り組みをされていますか？

黒岩 DXを加速し成果をいち早くお客さまにお届けするため、昨夏新設したNTT IT戦略事業本部では、NTTグループのIT戦略、DX推進を担うとともに、アジャイル開発やBizDevOpsを実践する人材を集結させ、ビジネス環境変化への迅速な対応を実現しています。

また、革新的なサービスをいち早く提供していくにはマー



ケットインの視点が不可欠です。同じく昨年、マーケティング機能をもつ営業企画部を統合し、ソリューション戦略機能を強化した新ビジネスインキュベーション本部では、多様なニーズにあわせ市場展開する「マーケットイン型ソリューション」創出に注力しています。そのひとつが社会インフラ分野における設備のデジタルツイン化と設備関連業務のDXにより新たなインフラメンテナンスの推進をめざす「SmartMainTech」シリーズです。インフラ設備データの統合・分析基盤となる「Smart Data Fusion」や、現場のコミュニケーションを変革し作業者の安全を支援する「フィールドコラボ」等を展開しています。

ビジネスとダイレクトに協創できる実践人材を育成

— 今後、期待される役割を果たすためのポイントはどのようなことになりそうですでしょうか

黒岩 このような取り組みを加速し

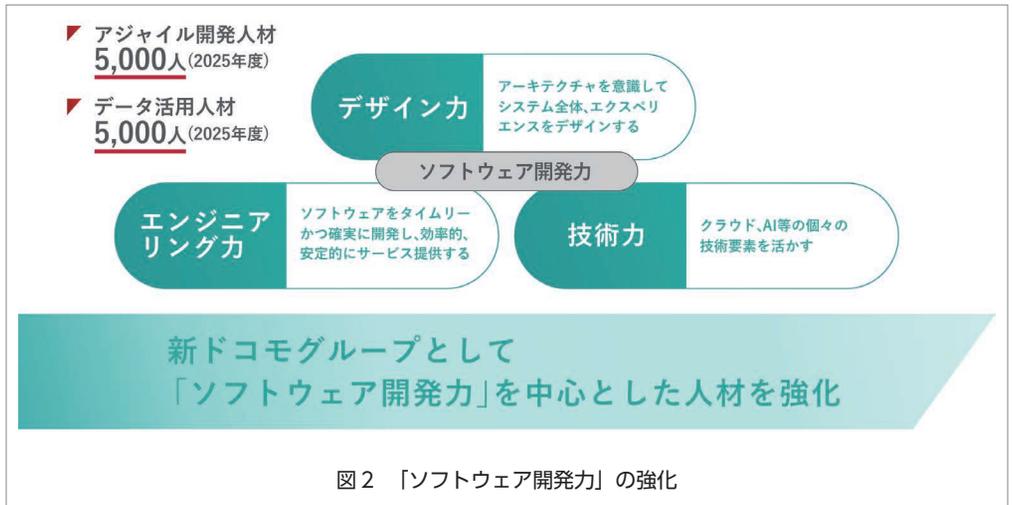


図2 「ソフトウェア開発力」の強化

ていくにあたり重要となるのが人材です。ソフトウェア開発力を構成する3つの力、アーキテクチャを意識してシステム全体、エクスペリエンスをデザインする「デザイン力」。ソフトウェアをタイムリーかつ確実に開発し、効率的、安定的にサービス提供する「エンジニアリング力」。クラウド、AI等の個々の技術要素を活用する「技術力」。これら3つの力をもった人材をバランスよく強化していくことを基本としています。アジャイル人材、データサイエンス人材は今年度末までにそれぞれ1,500人を目標に育成に取り組んでおり、その目標は達成する見込みで

す。今後はドコモグループ全体としての各人材5,000人の目標にむけてさらに育成に注力し、ビジネスとダイレクトに協創できる“実践力”の強化に力を入れていきます。

ドコモ・システムズとの統合によるシナジーにより、ビジネス価値を拡大

— 今後の展開についてお聞かせください

黒岩 2022年の7月にはドコモ・システムズがNTTコムウェアに加わる予定です。ドコモ・システムズの持つノウハウやスキルと、私たちの事業が一体となることで、これまで以上の価値をお客さまに提供できると確信しています。

NTTコムウェアは、長年培ってきた「ソフトウェア開発力」を活かし、新たな仲間とともに、「あなたと世界を変えていく。」にチャレンジしていきます。

— 本日はありがとうございました。

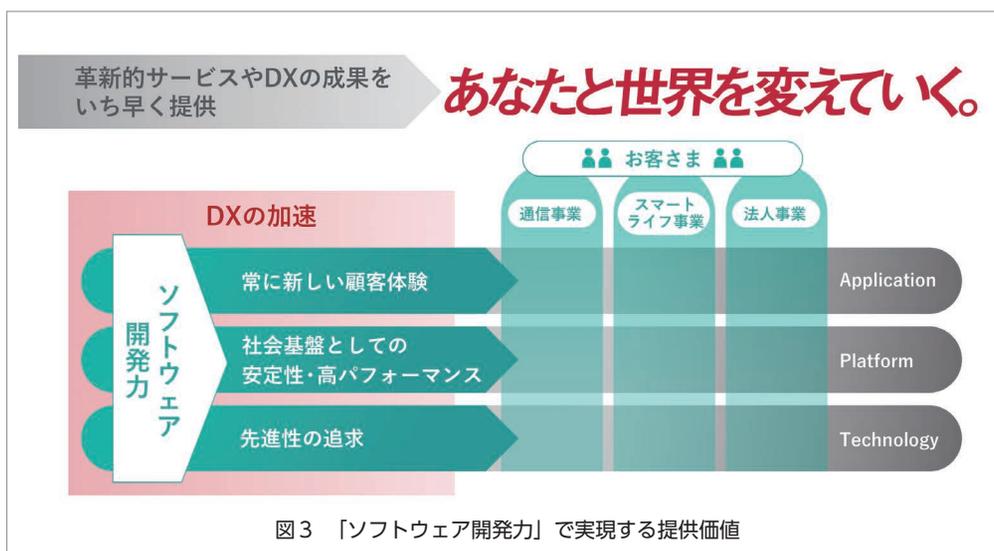


図3 「ソフトウェア開発力」で実現する提供価値